

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>本専攻修士課程では、本学の定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、62単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士設計または修士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定された者には、修士（建築学）の学位を授与します。</p>		<p>本専攻修士課程は、5年以上の建築教育期間を要求する UNESCO-UIA建築教育憲章に対応するため、建築学科と連続し、スタジオ教育を中心とした6年一貫の教育課程を編成します。このうち修士課程においては、ディプロマ・ポリシー（学習・教育到達目標）を修了時に達成できるよう、インターンシップ科目・演習科目・理論科目・フィールドワーク科目・語学科目からなり、62単位を修了要件とする教育課程を編成します。これにより、一級建築士の資格を得るために必要な実務経験2年と、UNESCO-UIA建築教育憲章に対応してJABEE（日本技術者教育認定機構）が定める建築系学士修士課程の認定基準を、修了時に満たす教育課程となります。</p>	<p>本専攻修士課程は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた者を求めます。</p>	
A. 高い知性	<p>高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築的事象を理解するための高度な「知識」を修得し、さらに修得した「知識」の統合により問題を解決する実践的能力を修得している。</p>	<p>インターンシップ科目は、一級建築士の資格を得るために必要な実務経験要件を、修士課程修了時に満たす上で必要不可欠な科目です。本研究科内に設置した一級建築士事務所「建築・都市デザインスタジオ」における実務実習や国内外の建築設計事務所や建設現場での設計・監理の実務、歴史的建造物の保存修復などに参加します。</p> <p>演習科目は、UNESCO-UIA建築教育憲章が定める一対一の対話型演習に相当し、スタジオ教育の中核をなします。総合演習で学部より高度かつ実践的な建築設計課題に取り組みむとともに、技術演習で構造・設備・施工といった技術的側面からの検討も行います。最終学期には、修士設計または修士論文に取り組みます。総合演習・技術演習・修士設計が、実務経験の一部を構成するインターンシップ関連科目（演習・実験・実習）として認められます。</p> <p>理論科目は、インターンシップや実務において必要不可欠な専門知識や実践的能力を身につけるインターンシップ関連科目（講義）と建築設計にかかわるより高度で最先端の専門知識に触れることができる講義科目によって構成します。</p> <p>フィールドワーク科目は、他の科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、同時に自ら新しい問題を発見するための学外実習科目であり、インターンシップ関連科目（演習・実験・実習）として認められます。</p> <p>語学科目は、語学力を養成する科目として、トルコ語を開講します。</p> <p>インターンシップ科目・演習科目においては、教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、理論科目においては、講義、小テスト、実験・実習、レポート、フィールドワーク科目においては、建築物・町並み・工事現場の見学、教員の説明、講演会への参加、レポート、語学科目においては、教員の説明や学生との対話、小テストといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、修了年次に提出する修士設計または修士論文およびその発表をもって、教育課程を通した学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>建築の三大要素である「強」「用」「美」の視点から、またさらに広い「真」「善」「美」の視点から、建築や都市空間を総合的に理解するとともに、これら「真」「善」「美」を総合し真に人間的な住環境を創生するために必要な、大学建築学科卒業レベルの基礎的知識、能力を有し、かつグローバル社会に貢献できる国際的通用性を備えた、より高度な建築設計技術者および自立した研究者を目指す者を受け入れます。</p>	
	A-1			<p>語学や諸学の基礎学力の修得および自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる実践的能力を修得している。</p>
	A-2			<p>構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的・先端的技術を積極的に吸収し、演習や実習によって空間的に構成する実践的能力を修得している。</p>
	A-3			<p>機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的・先端的技術を積極的に吸収し、演習や実習によって最適な空間を構成する実践的能力を修得している。</p>
A-4	<p>コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらのもとで、適切な設計・施工計画を進められる実践的能力を修得している。</p>			
B. 善美な情操	<p>「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美」的・「歴史」的・「文化」的価値を理解し、グローバルな視点から地域の伝統的文化を創生できる実践的能力を修得している。</p>	<p>フィールドワーク科目は、他の科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、同時に自ら新しい問題を発見するための学外実習科目であり、インターンシップ関連科目（演習・実験・実習）として認められます。</p> <p>語学科目は、語学力を養成する科目として、トルコ語を開講します。</p> <p>インターンシップ科目・演習科目においては、教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、理論科目においては、講義、小テスト、実験・実習、レポート、フィールドワーク科目においては、建築物・町並み・工事現場の見学、教員の説明、講演会への参加、レポート、語学科目においては、教員の説明や学生との対話、小テストといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、修了年次に提出する修士設計または修士論文およびその発表をもって、教育課程を通した学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>建築の三大要素である「強」「用」「美」の視点から、またさらに広い「真」「善」「美」の視点から、建築や都市空間を総合的に理解するとともに、これら「真」「善」「美」を総合し真に人間的な住環境を創生するために必要な、大学建築学科卒業レベルの基礎的知識、能力を有し、かつグローバル社会に貢献できる国際的通用性を備えた、より高度な建築設計技術者および自立した研究者を目指す者を受け入れます。</p>	
	B-1			<p>基礎的造形能力を培っている。</p>
B-2	<p>歴史・文化・国際社会・地球環境を理解する実践的知識を修得し価値観を身につけている。</p>			
C. 高雅な徳性	<p>地球環境・国家・地域社会において真に人間的な住環境を創生するために、社会的義務と責任を重んじ、グローバルな視点を持って自律的に行動する「人格」を身につけている。</p>	<p>フィールドワーク科目は、他の科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、同時に自ら新しい問題を発見するための学外実習科目であり、インターンシップ関連科目（演習・実験・実習）として認められます。</p> <p>語学科目は、語学力を養成する科目として、トルコ語を開講します。</p> <p>インターンシップ科目・演習科目においては、教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、理論科目においては、講義、小テスト、実験・実習、レポート、フィールドワーク科目においては、建築物・町並み・工事現場の見学、教員の説明、講演会への参加、レポート、語学科目においては、教員の説明や学生との対話、小テストといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、修了年次に提出する修士設計または修士論文およびその発表をもって、教育課程を通した学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>建築の三大要素である「強」「用」「美」の視点から、またさらに広い「真」「善」「美」の視点から、建築や都市空間を総合的に理解するとともに、これら「真」「善」「美」を総合し真に人間的な住環境を創生するために必要な、大学建築学科卒業レベルの基礎的知識、能力を有し、かつグローバル社会に貢献できる国際的通用性を備えた、より高度な建築設計技術者および自立した研究者を目指す者を受け入れます。</p>	
	C			<p>社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を身につけ、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成している。</p>
D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	<p>「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を身につけ、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得している。</p>	<p>フィールドワーク科目は、他の科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、同時に自ら新しい問題を発見するための学外実習科目であり、インターンシップ関連科目（演習・実験・実習）として認められます。</p> <p>語学科目は、語学力を養成する科目として、トルコ語を開講します。</p> <p>インターンシップ科目・演習科目においては、教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、理論科目においては、講義、小テスト、実験・実習、レポート、フィールドワーク科目においては、建築物・町並み・工事現場の見学、教員の説明、講演会への参加、レポート、語学科目においては、教員の説明や学生との対話、小テストといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、修了年次に提出する修士設計または修士論文およびその発表をもって、教育課程を通した学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>建築の三大要素である「強」「用」「美」の視点から、またさらに広い「真」「善」「美」の視点から、建築や都市空間を総合的に理解するとともに、これら「真」「善」「美」を総合し真に人間的な住環境を創生するために必要な、大学建築学科卒業レベルの基礎的知識、能力を有し、かつグローバル社会に貢献できる国際的通用性を備えた、より高度な建築設計技術者および自立した研究者を目指す者を受け入れます。</p>	
	D-1			<p>「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的・実践的に実現する能力を修得している。</p>
D-2	<p>様々な専門家・技術者との共同の重要性を理解し、チームワークで建築をつくりこむことのできる能力を修得している。</p>			